

高い公共性をもつ精神医学教室の責務
個人と社会の精神的幸福の実現を目指して



DEPARTMENT OF NEUROPSYCHIATRY
GRADUATE SCHOOL OF MEDICINE, THE UNIVERSITY OF TOKYO

精神医療スタッフ 臨床研修プログラム 第1期 研修生募集 (平成24年4月～26年3月)



研修プログラム説明会

日時：2011年12月7日（水）18:30-19:30

場所：東京大学医学部附属病院

南研究棟1階 精神神経科医局

申込：氏名・所属・年齢をE-mailにてお知らせ下さい

E-mail：syudoyamasaki@gmail.com

1次選考（書類）

- ・締切：平成23（2011）年12月20日（消印有効）
- ・応募様式：履歴書・職務経歴書（自己紹介書）・小論文
小論文：研修プログラムでやってみたいこと（1200字）
- ・送付先：〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学医学部附属病院 精神神経科医局内
ユースメンタルヘルス講座

2次選考（面接）

- ・対象：1次選考合格者 日時：平成24年1月（相談の上調整）

～研修プログラムの対象～

次世代の精神保健・医療を担うプロフェッショナルを目指す多職種の若手の方
(精神保健福祉士・臨床心理士・作業療法士・看護師・保健師)
精神保健・臨床心理・教育系大学院に所属し、臨床研究者を志す方

～研修内容～

大学病院・総合病院における精神医療の実際を、総合的に学べます
地域精神医療・多職種協働アプローチが学べます
エビデンスに基づいた心理社会的支援の実際が学べます
最先端の臨床研究（思春期コホート研究・脳画像研究など）が学べます
修士論文・博士論文のフィールドとしてご活用いただくことも可能です

精神医療スタッフ 臨床研修プログラム 概要

研修プログラムの概要

- ・2年間（H24年4月～H26年3月）
- ・週3日～（応相談：より少ない日数でも可）
- ・病院臨床実習（病棟・外来）
- ・地域サービス見学（成人デイケア・早期支援サービス・就学・就労支援）
- ・臨床研究への協力・参加
- ・専門医療・先進医療見学・実習（こころのリスク外来・こころの検査入院等）

研修の対象

- ・精神医療における総合的な実践能力を現場で身につけたい方
- ・精神医療スタッフとしてのスキルをアップしたい方
- ・研究と実践を幅広く学びたい方
- ・精神保健福祉士、臨床心理士を目指す方
- ・既に精神保健福祉の現場で数年間のキャリアがありさらにスキルアップしたい方

1年目研修の例

Lecture

～講義～

精神医学概略
精神科クルーズ
各種研修会
講演会

Service & Community

～サービス・地域の実際～

外来予診実習
心理検査実習
こころの検査入院実習
地域派遣事業見学
早期支援サービス見学

Practice

～実践スキル～

外来・病棟診療実習
ケースマネジメント実習
総合病院PSW業務実習
リエゾン見学実習

Clinical Research

～臨床研究入門～

臨床研究見学参加
研究会・ミーティング参加
学術集会参加
データ収集・研究実施
(修士論文・博士論文等)

内容はご希望に沿ってアレンジいたします。2年目は各自OJTとスーパーバイズに移行していきます。

笠井清登

(東京大学 医学部附属病院 精神神経科 教授)

未来型の精神保健・医療とは、ニーズとエビデンスに基づく、一人一人の当事者・市民中心のアプローチです。それによって個人のウェルビーイングが達成され、結果として社会全体の精神的富裕度が高まるのです。

このために私たちは、精神保健・予防と医療を、大学病院と地域を、脳科学と心理・社会科学を、当事者と市民を、シームレスにつなぎ、サステナブルな共生社会を目指す総合人間科学の構築を進めています。そうした舞台のなかで、包括的なケースマネジメント能力を持つ次世代の精神保健・医療プロフェッショナルを育成したいと願っています。



西田淳志

(精神保健福祉士・博士 医学部非常勤講師)

国民の精神的健康の保持・増進は、現代における最も重要な国家課題です。こうした社会的期待に応えられる精神保健医療福祉の専門家の養成が、今、求められています。精神保健医療の変革期に、臨床、研究、政策立案等に貢献する新しい人材の登場が待たれています。



荒木剛

(医師・医学博士 医学部ユースメンタルヘルズ講座 特任准教授)

我々は色々な人が自らの力で生きていく上で少しでも手助けができないかと日々の診療を行っております。今後の精神医療において多職種で連携をとって支えていくことが必須となっており、どのような場面にも対応できるスタッフが求められています。本プログラムを活用する精神医療の一端を担う方との仕事を楽しみにしています。



山崎修道

(臨床心理士・精神保健福祉士・博士 医学部ユースメンタルヘルズ講座特任助教)

これまでの日本の精神医療や心理臨床は、実践と研究が二項対立でとらえられがちでしたが、エビデンスに基づく医療が世界標準となり、精神医療・心理臨床も科学的な視点に基づく臨床実践が求められています。大学病院こそ、今求められている科学者＝実践家モデルの体得に最適な場です。是非さまざまなバックグラウンドを持つ方々に集まっていただければと思います。



金原明子

(精神保健福祉士 医学部附属病院 精神神経科ケースワーカー)

今後の精神医療は、ケースマネージャー主導の治療構造に転換していくと思います。そこでは、多職種を巻き込み動かすマネジメント力が必須です。大学病院では院内外の多くのスタッフと協働して主体的にニーズへ対応し、様々な調整にあたり、自然とマネジメント力が養われます。総合力を高めたい方にはぜひお勧めしたいと思います。

